

E1名神(関ヶ原地区) 大雪時による大規模滞留事象 <位置図>

2024年1月31日
中日本高速道路株式会社
定例記者会見 資料2

- 【時系列】**
- 1/24(水)
- 6:00 関ヶ原IC付近で降雪開始
 - 9:08 下り線 391.6KP付近において、スタック車両確認
 - 9:30 大垣IC～米原JCT間(下り線)の通行止開始
 - 10:20 岐阜羽島IC～米原JCT間(下り線)に通行止区間変更
 - 10:30 岐阜羽島IC～八日市IC間(上下線)に通行止区間変更
 - 11:25 岐阜羽島IC～栗東湖南IC間(上下線)に通行止区間変更
 - 11:30 国道21号(楽田交差点～西門寺交差点)の通行止開始
国道8号(西門寺交差点～辻交差点)の通行止開始
 - 13:08 お客さま支援開始
 - 14:45 NEXCOから岐阜県へ応援要請
 - 15:00 自衛隊応援派遣の要請受理
- 1/25(木)
- 0:00 上り線滞留車両の解消
 - 4:00 下り線滞留車両の解消
 - 12:00 国道8号(西門寺交差点～辻交差点)の通行止解除
 - 15:30 国道21号(楽田交差点～西門寺交差点)の通行止解除
 - 19:30 岐阜羽島IC～栗東湖南IC間(上下線)の通行止解除(最大34時間)

降雪【関ヶ原IC】

9時
9cm/h

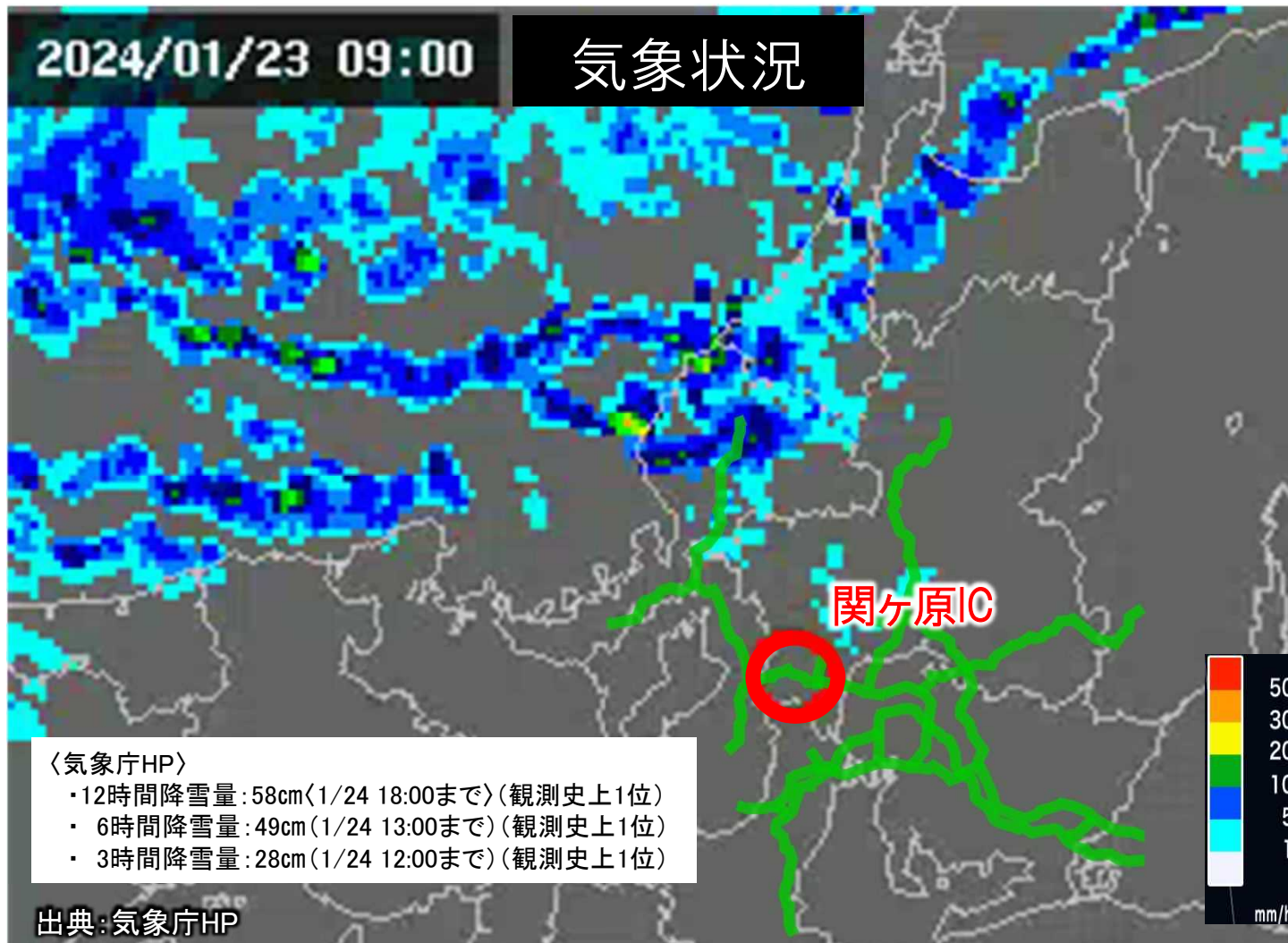
11時
14cm/h

通行止め解除・お客さま支援の取り組み状況



E1名神 関ヶ原IC付近の気象状況 (1/23 9:00~)

- 日本海で西風で移動していたJPCZ*の雪雲が 1/24 8時頃に風向きが急変し、関ヶ原地区に流入
- これにより、関ヶ原地区での12時間降雪量は58センチを記録し、1997年10月の統計開始からの観測史上1位の値を更新*するなど、厳しい気象状況に見舞われた (気象庁HPより引用)

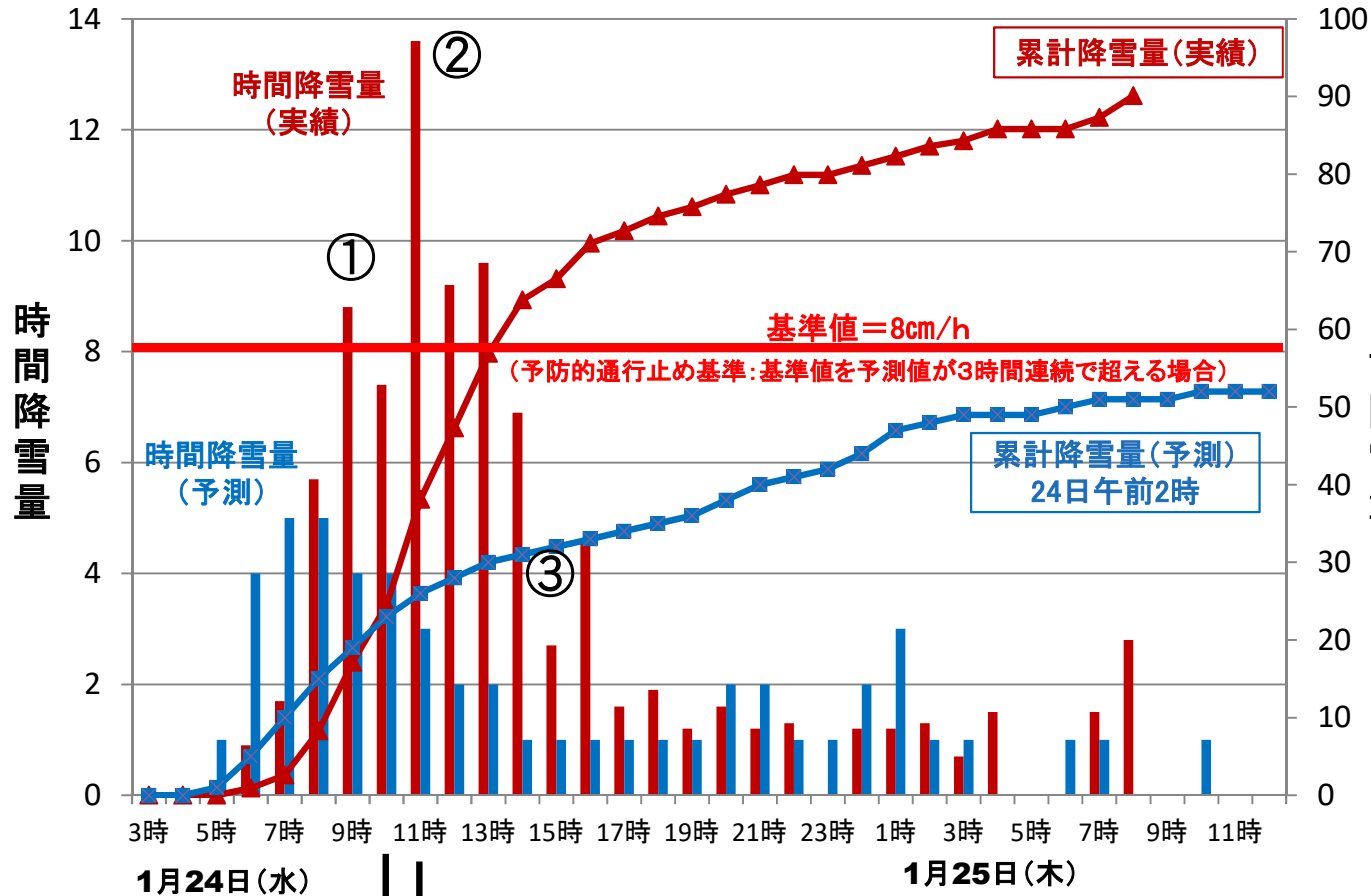


*JPCZ: 日本海寒帯気団収束帯、Japan sea Polar air mass Convergence Zone: JPCZ)とは、冬季に日本海で形成される、長さ1,000km程度にわたる気団の収束帯のことである。

E1名神 関ヶ原IC付近の降雪状況

○関ヶ原IC付近のNEXCO観測局では、8時台から降雪が強まり約6時間にわたり強降雪
 ○10時台に時間降雪量約14cm(②)を観測。 ※これまでの過去最大は時間6.9cm(2021年12月27日)

最大時間降雪量約14cm
 (1/24 10時-11時)



┌ 10:30 通行止め(上り線)開始
 └ 9:30 通行止め(下り線)開始

関ヶ原IC付近の降雪状況

①1/24 8時30分頃(機械除雪実施中)



②1/24 10時00分頃(ホワイトアウト)



③1/24 14時30分頃(人力除雪)



E1名神 下り線 滞留事象の原因

- 大型貨物車等のスタックに伴い、後続車両の停車並びに強降雪により通行が困難となり滞留が発生。
- 最初のスタック車両①を認知した時点で、速やかに部分通行止めを実施。

〈主な時系列〉

- 9:08 スタック車両①をCCTVで認知 →9:58 自力で退出
- 9:15～ 通行止め協議開始
- 9:20 現場確認班が彦根ICを出発
- 9:30 名神(下り線)大垣IC～米原JCT通行止め開始
- 9:50 スタック車両③と④をCCTVカメラで認知
- 10:32 最大渋滞長 6.6km 滞留車両 約700台を確認



①スタック車両
(9:08認知→9:58自力退出)
2024/01/24 09:08:07



通過約88台

②スタック車両
(9:10認知→9:26自力退出)
2024/01/24 09:11:10



通過約48台

③スタック車両(10:38認知)
2024/01/24 10:39:29



④スタック車両(10:45認知)
2024/01/24 10:54:08

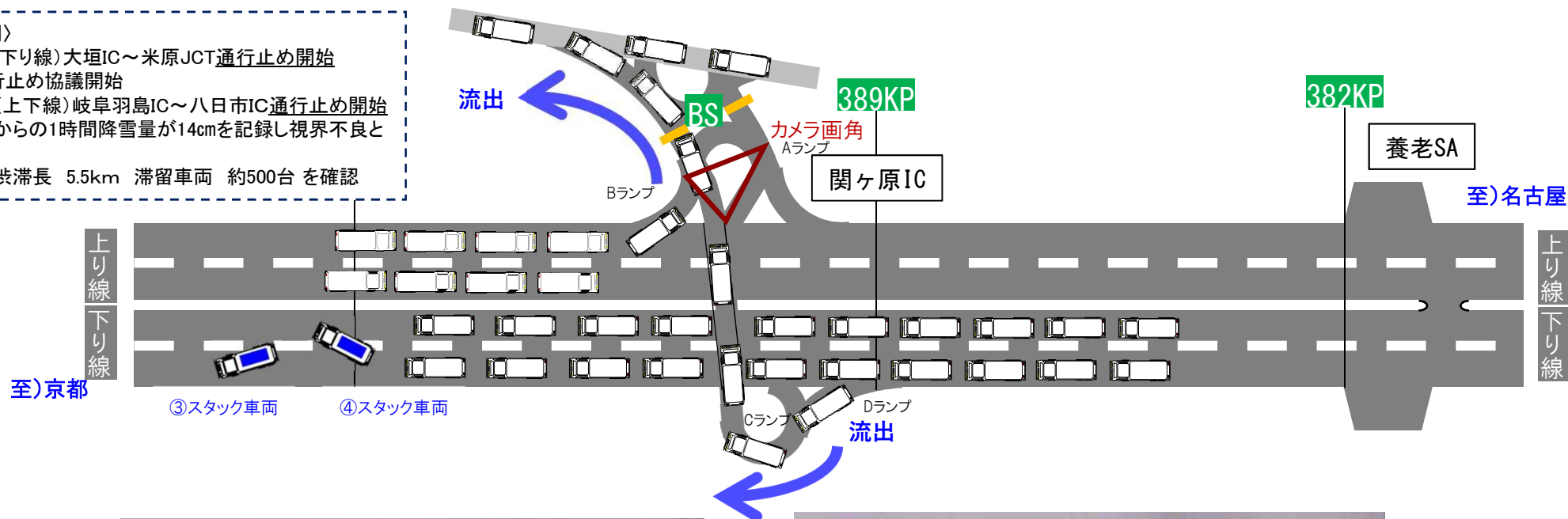


E1名神 上り線 滞留事象の原因

○関ヶ原ICオフランプへの交通集中と強降雪(視界不良)による停滞により、関ヶ原IC(上り)を先頭とした滞留が発生。その後積雪に伴い滞留が延伸

〈主な時系列〉

- 9:30 名神(下り線)大垣IC~米原JCT通行止め開始
- 10:00~ 通行止め協議開始
- 10:30 名神(上下線)岐阜羽島IC~八日市IC通行止め開始
- 11:00 10時からの1時間降雪量が14cmを記録し視界不良と積雪
- 11:00 最大渋滞長 5.5km 滞留車両 約500台を確認



滞留車両発生後に実施した「乗員保護活動」及び「情報提供」

乗員保護

物資配布支援

- 約150人体制(お客さま支援班)を構築
- 食料や燃料など乗員への物資配布支援を実施

・食料(カロリーメイト)	約560個
・食料(おにぎり)	約2,100個
・飲料(500mLペットボトル)	約1,800本
・カイロ	約440個
・トイレ(簡易トイレ)	約880個
・燃料	約40台

- 岐阜県職員の物資配布に対し、現場への輸送手段の確保

乗員への声掛け、健康管理

- お客さま支援班の人員が車両の乗員に声掛けし、健康状況を確認
- 通行止め区間内で、体調不良を訴えた3名を病院搬送

滞留車両の早期排除に向けた除雪体制の強化

- 約130名を派遣し、お客さま支援班の人員も協力しながら人力除雪を実施



他機関による乗員保護

- 自衛隊約300名により、除雪(車両救出のための人力除雪)
- 岐阜県約80名により、食料(おにぎり、お茶)の提供、食料等の配布



広報(情報提供)

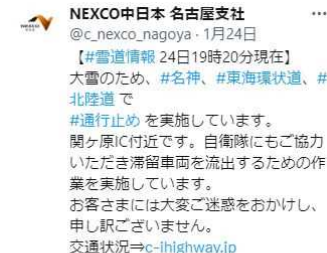
記者発表・HP公表

- 通行止め区間の追加や解除について、HP上で情報配信を実施

X(旧Twitter)

23回

- 滞留中の対応状況等について、適宜、情報配信



2 139 279 2.7万

12 448 905 8.4万

みちラジ(スマホから交通情報入手できるアプリ)

- 一斉同報機能を活用し、滞留車両に対して情報提供を実施 9回

その他情報配信

- 広域情報板を活用した広域迂回の実施
- ハイラジ(臨時情報文)
- 目で見えるハイウェイテレホン
- i-Highway(テロップ情報) 6回
- 荷主企業や物流事業者等への情報提供(317社)

2024年1月 E1名神(関ヶ原地区)大雪時の大規模滞留事象

〈2023年 E1A新名神事象対応策と今回の対応、課題と早急に実施する対応策、今後の対策の方向性〉



項目	E1A新名神 車両滞留事象対応策(2023年2月)	2024年1月 名神(関ヶ原地区)対応	課題
1. 通行止めのタイムラグが遅れたこと	○「予防的通行止め」の適用基準に達しない場合でも、渋滞延伸により除雪運行が困難となる等、大規模な滞留が見られる場合は、徹底した出控え要請とともに、躊躇なく通行止めを実施する。なお、上記方針について、事前に関係機関と運用方法について確認を実施する。	○降雪予測では「予防的通行止め」の適用基準に達していなかったため未実施 ○気象急変により24日9時台に除雪能力を超過する強降雪となり、下り線でスタック車両が発生したため、速やかに通行止めを実施。	①人命を最優先とした気象急変時の緊急的なオペレーション ・よりきめ細かな降雪状況把握 ・降雪状況に応じたスタック車両の早期発見 ・通行止め後の滞留規模拡大防止のための実効性のある流入抑制 ・緊急的な通行止めを行う際の関係機関との調整
2. お客さまにとって重要な情報が適切に届いていなかったこと	○大雪時の渋滞は、様々な要因で滞留につながるリスクがあるため、的確に渋滞情報等を提供するとともに、渋滞による滞留が発生した場合は、X(旧Twitter)をはじめとして、あらゆる媒体を活用して滞留状況、作業状況や解消の見込みなど、きめ細かく情報提供する。	○大雪情報が出たため、関係機関とも連携を図りWEBや本線情報板等による広域迂回や出控え広報を実施。 ○渋滞情報提供に関するi-Highway表示方法改善。 ○渋滞・滞留・作業状況に関する情報提供。 ・X(旧Twitter)(23回) ・道路交通情報アプリ「みちラジ」導入強化(9回)	
3. 渋滞による滞留に巻き込まれたすべてのお客さまへの支援ができなかったこと	○躊躇ない通行止め徹底による滞留発生防止に努めるとともに、万が一滞留の場合には、早い段階で関係機関へ情報共有し、関係機関からの応援を含めた乗員保護体制の充実を行う。	○滞留発生後の乗員保護活動の実施。 ・社内体制(約280名) ・自衛隊(約300名)、岐阜県(約80名)からの人力除雪や物資配布支援	②人命を最優先とした気象急変時の緊急的なオペレーション ・滞留状況を踏まえた関係機関からの応援も含めた乗員保護体制の早期充実
4. 渋滞(滞留)解消に長時間を要したこと	○躊躇ない通行止め徹底による滞留発生防止に努めるとともに、万が一滞留の場合には、中央分離帯開口部や後方からのUターン処理などにより長期化を回避する。	○滞留発生後、レッカー車や除雪車による滞留車救出を試みたが、予測をはるかに超える強降雪のため困難を極め、時間を要した。	③人命を最優先とした気象急変時の緊急的なオペレーション ・降雪状況に応じたスタック車両救出と初動迅速化 ・降雪状況に応じた除雪と初動迅速化
5. 通行止め解除までに想定以上に時間を要したこと	○効果的な凍結防止剤の活用や新技術など、広範囲にわたる圧雪凍結路面への迅速な対応が可能となる体制の整備を行う。	○圧雪凍結路面を想定した温水噴射機器事前配置。 ○滞留車両救出完了から15時間30分後に通行止め解除	

○人命を最優先とした気象急変時の緊急的なオペレーション確立に向けた早急に実施する対応策
(課題①対応)・きめ細やかな降雪状況、交通状況を監視するため、雪氷巡回増隊及びモニター監視員の専属配置※
・スタックを発生させないための強降雪予測区間への除雪車両の応援調整【強化】
・突発強降雪時の効果的な出控え・流入抑制のための呼び掛け(広報)の実施【強化】
・気象急変による緊急的な通行止めを行う際の関係機関との事前確認
(課題②対応)・お客さま早期支援のための支援部隊を本社・支社・隣接事務所等から応援派遣し前線への事前配置
・お客さま支援部隊への小型ロータリー等補助機器の配備
・いち早くスタック車両に到達できるよう、複数のアクセスルート確保に向けた作業を同時並行で着手
(課題③対応)・スタック救出のためのトラクターショベル、レッカーの増車と初動迅速化
・滞留車両の早期解消のため、あらゆるルート(Uターン、後退、逆走など)を模索し、各ルートからの救出活動を同時並行で実施
・早期除雪完了のため、強降雪予測区間への除雪車両の応援派遣強化と初動迅速化
※本社、支社、隣接事務所等から応援派遣

(今後の対策の方向性)

有識者の意見を聞きながら、下記の対策を検討していく。

1. スタック車両発生防止: 融雪装置等除雪能力の向上に向けたハード整備
2. スタック車両早期発見: CCTV監視範囲の拡大及び自動検知等の監視機能の強化
3. 滞留の発生防止: 遠隔地からの早期物理閉鎖の実施、強降雪区間への流入抑制
4. 滞留の早期解消: 滞留車両救出ルート増設を目的としたハード整備
5. お客さまの早期支援: 支援部隊の前線拠点の整備、支援物資の充実
6. 通行止め基準等の見直し